

## 第31回市民まちづくり会議 議事録

平成30年10月30日(火) 日野市役所5階504会議室  
午後2時00分～午後4時00分

議 題 : 議案第1号:会長の選出、会長職務代理の指名  
議案第2号:委員の議席の決定  
報告事項 :日野市まちづくりマスタープランの改訂(素案)の報告について

出席者(敬称略)	
市民委員	金井透・稲山純子・比留間文彦
有識者委員	山口達夫・小泉秀樹・小柳貢・和多治
欠席委員	なし
事務局	まちづくり部長 宮田守 都市計画課:岡田正和・山本修平・津村香代子・氏家健太郎・川上慎司
傍聴者	4名
事務局	第31回市民まちづくり会議を開会する。  委嘱状の交付を行う。  遅刻委員1名、半数以上の出席委員により会議の成立を報告する。  本日の進行について、今期最初の開催のため、議案第1号会長の選出、会長職務代理の指名、議案第2号委員の議席の決定、報告事項として「日野市まちづくりマスタープランの改訂(素案)」について、審議を行うことを説明する。  <b>【議案第1号:会長の選出】</b> 山口達夫委員が推薦され、全員一致で選出される。  会 長 会長就任あいさつ 会長職務代理の指名 会長より小泉秀樹委員を指名(本人遅刻のため不在)  <b>【議案第2号:議席の決定】</b> 抽選にて議席を決定 議席番号1番 小柳 貢 2番 稲山 純子 3番 山口 達夫

<p>会 長</p>	<p>4番 比留間文彦 5番 小泉 秀樹 6番 和多 治 7番 金井 透</p> <p>出席委員の中から議席番号順で、議席番号1番の小柳委員を会議録署名委員に決定。</p> <p>傍聴の取り扱いについて委員に確認し、許可する。</p> <p>傍聴者 4名入室</p> <p><b>【議題:報告事項】</b> 報告事項「日野市まちづくりマスタープランの改訂(素案)」の報告を事務局に指示する。</p>
<p>事 務 局</p>	<p>「日野市まちづくりマスタープランの改訂(素案)」について報告内容の説明</p>
<p>小泉委員</p>	<p><b>【質疑応答】</b></p> <p>コア会議、地域別の意見交換会をやった。なかなか今時、まちづくりマスタープランに対して関心を持っていただけない事情もある。</p> <p>高齢社会への対応も非常に重要になってきている。地域ケア会議でワークショップをやり、いろいろな意見をいただいた。高齢者の話が多いが、様々な人の生活に関わることなので、介護ケアだけではなくて、公園のこと、お散歩ルートがあるといいよね等、健康に暮らせるような地域にとの話が出た。</p>
<p>会 長</p>	<p>これからの社会変化について、今までの30年よりも、これからの15年のほうがさらに大きな変化になるだろう。平成15年からの15年でもこれだけの変化があつて、これから先は今の予想を超えてくる。それでも、こういうものを作っておくのとそうでないのとでは、非常に大事になってくる。</p> <p>労働人口がこれからどんどん減ると言われている。それを補うものとして、外国人労働者。その労働力暫時提供として、新しい人が次から次へ入ってくる。まちづくりとの関連ではどのような議論があつたのか。</p>
<p>事 務 局</p>	<p>労働力について特段色分けはしてない。高齢社会は事実であるが、年齢で区切って考えないほうがいいということで、高齢者層も含めて社会で活躍できることが大事という視点をもって検討してきた。</p>
<p>会 長</p>	<p>日野市には国際交流センターがある。もう少し広げるような、市の施策の中で国際化に対する対応をお考えいただくとよいのでは。市のパンフレット等を</p>

会 長	外国語に翻訳する補助金があまり出ていない。
事 務 局	外国人を含めた、どなたにもわかりやすい表記については、サイン計画等で少しずつやってはいるが、具体的に記述できていないところもあるので追記していきたい。
小泉委員	実際に外国人の数は増えているのか。
事 務 局	明確な数字は今手元にない。外国人登録をしている人数は一定数いる。
小泉委員	UR では外国人が居住できるよう対応していたり、公営住宅の空き部屋を外国人に住ませるなど、川口市や北関東などで外国人の集積地域があるという話があるが、首都圏でもそういうことはあるのか。
事 務 局	特定の日本語学校があるエリアで、外国人をよく見かけることはあるが、特定の地域に集中してお住まいということはないと思っている。
稲山委員	<p>委員になって初めてマスタープランの存在を知った。マスタープランが重たい。市民が読んでわかりやすく、身近なものにならないといけないと思う。ページ数を少なくして、薄めに簡潔にわかりやすいほうがいいのではないか。他市（立川市、調布市、小平市、昭島市等）は、薄くてコンパクトでわかりやすい。</p> <p>また、記憶と文化を伝えるまちというように「記憶」という抽象的な言葉がよく出てくる。「記憶」は人の内面の問題で、まちづくりの文化と並ぶ概念のものではなく異質な言葉に感じる。5 市のマスタープランに「記憶」という言葉は一切出てこない。せっかく作るなら 10、20 年先も生きるものなので、もう少し吟味したほうがいいのでは。</p>
事 務 局	<p>今回の見直しの検討の中でも同じような議論が出た。都市計画マスタープランはできるだけコンパクトにしていこうという流れ。ただ、まちづくりマスタープランというのは、それに加えて市民の暮らしも含めたより幅広いもの。なおかつ、H15 策定時に市民の方からいろいろな意見を出していただき、市に対してちゃんとやってという戒めの意味もあると思っている。よって、現行を継承しようと考え、こういう結果になった。</p> <p>また、「記憶」は人の生活があってこそそのまちづくりという視点で使わせていただいている。今の事務局としてはそう思っているが、当初策定に携わっていただいた金井委員の助言もいただくと助かる。</p>
金井委員	<p>前回の検討結果を踏まえて、続けていただいたと感じた。</p> <p>まず、膨大という点については、メリットは2つある。</p> <p>1つは、細かく書かれていることで、方針が明確になる。コンパクトにすると、</p>

金井委員	<p>抽象度が高まり、おおざっぱになりがち。解釈の仕様によってどうしても捉えられる。日野市の場合は、細かく書き込んでおいて、長期間やっぺいこうという選択をした。</p> <p>もう1つは、地域別、テーマ別でわかりやすく書き込むことで、自分の地域や自分の興味のあるテーマを読めば、問題点や方向性がわかる。</p> <p>ただ、パンフレットにまとめたりできればよかったが、予算や編集作業などの技術的なこともあり、そこまでできなかった。</p>
会 長	<p>判断の材料となる指導書としてとなると、どうしても踏み込んで書かざるを得なかったということ。概要書の策定の予定はあるのか。</p>
事 務 局	<p>本編が完成したら概要版をまとめていこうと思う。ただ、おそらくコンパクトにまとめても、今日説明させていただいた分量になると思う。</p>
金井委員	<p>「記憶」という言葉については、あえて使っている。他とは違い、オリジナリティがあり個性的でいいと思う。人によって、日野市に対する思い、記憶は異なる。生まれてずっと日野市にいる人、50代で引っ越してきた人。また、どの時代を過ごしたか等により、みんなそれぞれ異なる。</p> <p>歴史と文化のまちづくりというと、日野市は昔宿場町があつて新撰組隊士が生まれて…という、いわゆるそういう歴史と文化、一つの歴史になりがち。「記憶」というのは、それぞれの人にとっての日野市の記憶をベースに入れた。</p>
事 務 局	<p>東京都へ説明した時に、都内で一番分厚いと驚かれた。文学的なものと言われる。よく読むと、市民がどう思っているか読み解けるくらい書いてある。</p> <p>我々が民間開発業者に対して、開発地域についての市民の思いを説明するのに効果がある。シンプルがいいという意見もあるが、運用している中ではそれなりに意義はあると思ってやっている。</p>
比留間委員	<p>私の専門の気象学で考えると、気象の積み重ねが気候になる。一つの考え方だと思う。</p>
和多委員	<p>地域でなく、中学校区に切り替えた理由はなにか。</p>
事 務 局	<p>これまで、地形、人の行動の視点で8つに分けてきた。今回8中学校区に分け直した。これからは人の暮らしの中でまちづくりを考えていかなければいけない。そのために、中学校区単位が人の活動の大きなポイントになってくる。人の暮らしの中での集まり方を考えたときに、より学校区域がこれからに即するのではと考えた。そのうえで、地域懇談会といった地域で自ら考えることを施策として中学校区で検討している。それと整合をとるということで、変えさせていただいた。</p>

会 長	地域包括支援センターもおおよそ中学校区でやっているのか。
事 務 局	市内には地域包括支援センターが9つあるが、おおむね中学校区をもとに設定されていると聞いている。
会 長	割と人間関係がその中学校区の中で発達してくるということか。
事 務 局	100%一致していないが、おおむね同じような色合いのエリアで話し合いができると思っている。
	<p>※配布資料に訂正あり</p> <p>概要版 P. 14 ページ</p> <p>上段:平山中学校区域(×第二中)</p> <p>下段:・・・固定産業(×第二中)、七生中(×第四中)</p> <p>訂正版を改めて送らせていただく。</p>
稲山委員	先日送られてきた資料も学校地域が間違っている。中国語みたいなものもあった。
事 務 局	小見出しに誤りがあるので訂正させていただく。誤植も後程修正させていただく。
金井委員	<p>都市マスに書き込むべきことがわからない。</p> <p>住宅に関して、空家対策は評価できる。一方で、比較的古い住宅地域で、大きめの敷地が分割されて建売りになっていることが散見される。また、集合住宅の老朽化に伴う建替えの促進について、新しい都市マスに触れられているのか。それか、市で別途検討されているのか伺いたい。</p>
事 務 局	<p>住宅部分ではできるだけ盛り込んでいきたい内容。一戸建ての敷地の分割は散見されており、続いていくと思うので、必要に応じて地区まちづくり計画を地域の方と一緒に検討していく中で、地区計画で敷地の分割規制は落とし込んでいく等話し合いの場をもつことは継続していきたい旨は記述している。</p> <p>一方で課題として、敷地面積の最低限度が設定されており、敷地が分割されないエリアの地価が相対的に下がってきている。同じように、必要な検討は地域の人と検討していきたいと位置づけさせてもらっている。</p> <p>分割したい人、分割されたくない人、それぞれ根強く意見は存在する。時間をかけて話し合っていかななくてはならない課題。</p>
会 長	細分化は市で規制しない限り無理だろうし、一方で規制していいのかという

会 長	課題。地域計画を理解できるかどうか。市の方向性としては、できるだけ地域計画で縛っていききたいということか。
事 務 局	<p>良好な住居環境は地区ごとに違う。現在 39 地区あり、63.*他のエリアにも広げていきたい。敷地分割の規制などを検討していきたい。</p> <p>集合住宅の更新についても、例えば低層住宅エリアで、3階建てまでが建てられるところに5階建てが建っている事例もある。現行の規制が制定される以前に建っている適法のもの。それをどのように更新していくべきか検討しなくてはいけないと記述させてもらっている。</p>
和多委員	立地適正化計画を踏まえて変えたとある。住宅を優先的に誘導していくとあるが、それ以外で変わったことはあるか。
事 務 局	<p>現在、平行して立地適正化計画の検討を進めている。マスタープラン策定後、決定予定。</p> <p>現行のマスタープランは、コンパクトシティ化が明確化されている。丘陵団地はある程度街中に住み替えましようとする。現実的にはあまり進んでない、市民が暮らす場所を選んだ。行政として住み替えてというのは不適切。それぞれの市民が選んだ場所は重要視して、サポートしつつ、駅近の利便性をもっとアピールして選択してもらうことを周知することが必要。緩やかな居住の誘導は今後も選択肢として残していきたい。</p> <p>例えば、樹林地は居住誘導区域から除外、緑を保全しながら住んでいただくエリアの位置づけにしたい。その他、日野市の根幹の産業工業地域については、引き続き産業的な利用を続けてもらいたいので除外を想定して検討している。</p>
会 長	ご意見を承りたい。
小泉委員	<p>配慮すべき点。わかりやすさ。マスタープラン本体はこれぐらいのボリュームは仕方ない。開発の案件が本会議に持ち込まれたとき、議論のベースになるのはプラン。地域の将来性をどういう方向にもっていくのか、ある程度厳密に書かれてないと議論がしにくい。他市のプランだと、どうにでも読めてしまう。日野市は、地域の方向を集約して、ある方向へ設定しましようとかんがっている。ここで議論して個別の案件を話し合う幅が絞られている。それでも時間がかかる。開発の案件で、ある程度詳細を書かざるを得ない。</p> <p>マスタープランは市民のために、行政間との調整を図るためのもの。プランに書いてあることを協力してもらえないか、という根拠になる。多少入れ込んでおいて、行政間との調整していただく作りになっている。分量的には多いが、一生懸命作ってあるのは珍しい、むしろプラスの面がある。</p> <p>他自治体では、立地適正化計画を作るうえで、居住誘導区域を検討するの</p>

小泉委員	に、それぞれのエリアの特性、安全性等、地域別に少し冊子を分けて、全体のものと、地域のことしか乗ってない概要版を届けようとしている。そういう工夫は考えてみてもいいのかなと思った。読んでもらわないと。ちゃんと検討してもらいたい。
会 長	昔、水と緑一本だった。どうしても高台の人が下まで降りてくるのが大変、どういう交通手段でいざなうか。ロボット、AI 化などテーマを決めて、日野市が援助して開発を行うなど、地域格差を解消する手立てとして、ロボット産業をどう誘致していくかという観点もあっていいかなと思う。 あと、用水がものすごく減ってきた。水と緑の基本は、用水の張り巡らしだった。今はほとんど残ってない。多摩川からの水も使っていない、利根川からの水がほとんどだという状況の中、例えば羽村と同じように、工場がなくなったから、その分を市民に配る、湧き水を、地下水を導入するなど、今までと違う水の柱を考えてはどうかという意見。
和多委員	前回のときは水を残すという議論があった。
会 長	用水からの配分した水路がほとんどなくなった。用水だけが残っている。
事 務 局	田んぼが減ってきた。水を引く必要性がなくなってきた。
比留間委員	平成になって用水路の長さが 50 キロ減った。
会 長	今、水と緑が誇れるのかということを素直に継承したらどうかと思う。
和多委員	12 月のパブコメはこの資料をベースに市民から意見を募るのか。
事 務 局	基本的には、本文(冊子)をベースにパブコメを実施する。ホームページに公表するのに併せて、都市計画課窓口、各支所、各図書館に置いてご覧になっていただく。
会 長	それでは、意見は全て出終わったということによろしいか。
各委員	全員同意
会 長	それでは、以上をもって閉会とする。

この議事録は、書記が作成したものであるが、その内容が正確であることを認め、ここに署名します。

平成 年( 年) 月 日

会 長 ..... 印

署名委員 ..... 印